視覚情報が大切と説明

桃映中で人権講演会 聴覚障害の四方さん

福知山市北小谷ケ丘、桃映中学校（一色浩幸校長）で1月31日、1年生83人を対象に聴覚障害について学ぶ人権講演会が開かれた。講師は四方裕美子さん＝北本町二区＝。先天性難聴の自身の体験談を通じて、聴覚障害者とのコミュニケーションで気を付けてほしいことなどを伝えた。

四方さんは1歳ごろに聴覚障害であることが分かり、聾学校で言葉の発音などを学んだ。子どものころは、手話ではなく、話し手の口の動きを読み取る読唇術と発語を磨いた。

講演会で四方さんは、聴覚障害者にとって顔の表情など、視覚情報が重要とし「手話や補聴器で拾った音と、相手の口元を読み取って会話内容を理解するからです」と説明。「コロナ禍の今はみんなマスクをしているから大変。音声だけで話さず、筆談やジェスチャーなど、視覚的な情報も使ってみて」と呼びかけた。

また、はっきりした発音や雑音の少ない環境で話すこと、複数人の会話では、話す前に合図することなどが大切だと話した。

「聞こえない人、聞こえにくい人もみなさんと同じ。聞こえないこと以外は何でもできるので、サポートをしてもらえるとうれしい。困っている聴覚障害者に気付いたら、相手の肩をたたいてゆっくりと話しかけてあげて」と伝えた。

3組の福井翔大君は「滑らかに話されていてすごいと思いました。（聴覚障害者と）接するときは口を大きく開けて会話していきたい」と話していた。

講演する四方さん

両丹日日新聞 2023.2.2